

子どものいのちと育ちと平和のためにみんなでチャレンジ!

ヒロシマゴゴチャレンジ! ぶんかん速報

第53回全国保育団体合同研究集会
広島実行委員会

2021.8.1

3号

2日目も元気に

ゴゴチャレンジ!



踊らなくっちゃ、始まらない!

今日も元気に始めました。
こちらは広島の、とある保育園会場の
2日目の朝です。

講座 午前

冒頭から、自分の心の片隅にあった「保育中コロナ禍で密になるのはどうなのだろうか…」と悩んでいましたが「乳児に密を避けることはできない」とお話がありホッとすることができました。今担当している2歳児の保育に生かせる内容が多く参考になりました。共有して実践してみようと思います。

神奈川 矢向保育園 岩本さん

松本博雄さん

『子どもの「声」を聴きとり、子どもとつくる保育』



子どもの多様な声を大人が一步踏み込んで読み解こうとする中で、子どもの発見から学び、子どもたちと保育をつくること。乳児期を越えてその先の生活へと連なる糧になるこの声を聴きとってもらえる、安心できる経験を増やして豊かな生活と遊びを保障する。

今年度4歳児担任ですが、今日のお話は乳児に限ったことではなく、学びが多かった。子どもの声を大事に取り上げ、周りの大人が尊重することで、子どもが自分の意見を表明できる力につながることを、日々意識したい。

広島 保育士

平松知子さん

『コロナ禍の保育、大人同士の関係どうつくる?』



コロナダカラシカタナイ? 自己責任?! 私たちは今どうしたいか、どんな社会にしたいか、今こそ、声をあげよう!! 大人も子どもも失敗したっていい。あきらめずに頑張りましょう、「ともに」。

さすが平松先生!! 最初から最後まで「うんうんそうだ! そなんだ!」と黙って、でも心は熱く聞かせてもらいました。コロナだから仕方ないとあきらめかけていた毎日にこれじゃあいかん頑張ろうと明日に向かう気力をいっぱいもらいました。ありがとうございます!!

兵庫 川西中央保育所 保育士

平松先生の熱さがものすごかった。泣けた。あきらめたらいけないと思った。仕事辞めたいと思ってたけど、もうちょっとやってみようと思えた。ただただ感謝。人生を変えてくれる人に出会えた。ありがとう。

広島 保育士

現場の保育士の生の声を聞き、今まで何となくしていた署名活動を本気でしないとないと思いました。コロナで大変な状況だけど、子どもたちの笑顔のために考えて、できることを協力しあって子育てしていきたいと思いました。

広島 保護者

熱い想いがピンバシと伝わる、とても熱い講座でした。中でもぐっと心にきたのは「こうであらねば、はもうやめよう。こんな今の私を受け止めて」という話。最近失敗や反省ばかりしていた私は気づけばボロボロと涙をこぼしていました。自分を「頑張ってるよね」と受け止めつつ、明日からすっきりした気持ちで頑張れそうです。

横浜 矢向保育園 関口さん

子どもの声をどれだけ聞いていたか、改めて思い返しながらか講座を聞かせてもらいました。子どもの一言一言を大事に耳をしっかりと傾け、発達を感じ、感動できる保育を作っていきたいです。

大阪 保育士

池添 素さん

『子どもたち、大人たち、元気に暮らしていますか?』



子どもの可能性を信じること、信頼して待つこと。大人もやりたいことを自分の宝物にして豊かに生活していくこと。誰もが持つ生きづらさ、しんどさは外に出して誰かと解決していこう!! 子ども「に」話を聞くのではなく、子ども「の」話を聞く。子どもからの発信をキャッチする、分かる想像力を持つことを大切にしたい。

「わかった!」と返事をする。うちには3人の子がいますがそれぞれの信用度で、できている子と違ってあげられてない子がいると気付かされました。

広島 なかよし保育園 保護者

初めての合研参加です。保育士3年目になりました。子どものこと、保護者のこと、保育のことがよく見えるようになってきた分、悩むことも多いですが、今日保育士としての大切な視点を改めて確認できました。広島 久地保育園

コロナ禍でしんどいことばかりで仕事に行くのも辛くなっていましたが、今日のお話を聞いて、明日からもっと子どもの話を聞こう、自分自身のやりたいこと楽しもうという気持ちになりました。

広島 学童指導員

とても暖かい語りで聞いているものに安心感を与えてくださった池添先生。「に」ではなく「の」で聞くという言葉、日々の自分を反省させられました。

保育士OB

講座 午後



田中先生のお話を聞き、自分自身の余裕の無さを改めて感じました。反省です・・・もっと自分も楽しみ、子どもたちから「今日も一億万楽しかった!」と言ってもらえるような保育がしたいです。
広島 保育士

田中浩司さん

『夢中になってあそび込む保育を』



子どもと大人が楽しめる保育は一億万楽しい保育生活になる! 子どもの声を聴きながら、当たり前を問いなおし、子どもと保育を作っていくことであそびこめる遊びにつなげる。大切なのは子どもの姿をいいね、おもしろいね! と話し合える職員集団。

楽しいあそびを子どもたちに提供したいというも思っていますが、どうしても押しつけのようになりがちな自分の保育にハッとさせられました。子どもの姿に寄り添い、耳を傾ける姿勢を大切に、自分も一緒になって楽しみながら学んでいける保育者でありたいと思います。
福島 さめがわこどもセンター 岡部さん

「できたこと」の中に次への手がかりがある!! つい、なぜできなかったかに目が向いてしまい、反省です。
広島 保育士



鉄板へら次郎
オオタフクから自立して
旅する途中合研に参加

熊丸みつ子さん

『子どもたちの幸せのために、今、私たちにできること』



みんな幸せになるために生まれた命。イライラすることは子どもの成長の証。ママも子どもたちも「順調!」全部生きる力に、土台になっていく。人は人の中でしか育たない! 子どもたちの幸せのためにみんなで手をつないでいきたい。

あっという間の1時間半でした。日々追われて、息子が生まれた時のことを、思い出すことがなくなっていたけど、生まれてきてくれてありがとうと心からまた思えました。うちの子最高!
広島 なかよし保育園保護者

熊丸先生のパワーに魅了され、今まで31年生きてきてもっと早く知りたかったと思いました。笑顔は心の安定剤! 順調! 楽しむことを大事に日々を過ごしたいと思いました。
広島 あんず認定こども園



しゃもじいじ
宮島シカオが持っていた
しゃもじに自我が芽生え、
自立した。博学で何でも
知っている。

フライケーコ
呉の名物。
こんがりもみじくに
秘かに憧れる。



熊丸さん最高でした。笑いあり涙ありのお話でした。明日から保護者にも子どもにも同僚同士にも『順調』を合言葉にしていきたいです。今日は、自宅で見ている人もいますが一緒に参加できる人は保育園で一緒に見て笑いあいました。
北海道 旭川のびろ保育園

親だけでなく、周りの大人みんな子育て。足りない分は貰えばいい、余った分はあげればいい。自分を大事に! うちのクラスの子最高!
元気になりました!! 1人で笑って1人で泣いて、ちょっと寂しかったですが、熊丸先生素敵でした。ありがとうございます。
福島 さめがわこどもセンター
青戸さん



保育を振り返った時に、保育者が気づいたことを職員間で考え合う、共有していくことが大切。という中で、いつもは、自分だけ気づきや考えがみんなと違ったら不安になってしまっていたのですが、逆にチャンスということをお聞きし、目から鱗でした。そして、一人で思っているだけでは次につながらないんだということを知ることができました。職員間で意見を出し合える雰囲気づくりも大切なと改めて感じました。
福島 さめがわこどもセンター
圓井(つむらい) さん



この時期にはこのクラスはここまでできていない! という意識にとらわれていたが、この今までにない生活スタイルの中に「心と身体のスランバイ」ができていないのに子どもたちにさせていたことがあり、はっとさせられました。今の子どもたちに向き合い、職員同士でしっかり振り返りをし、「今の保育」ができたらいいなと思いました。
広島 ちびっこすくすく保育園

長瀬美子さん

『今、保育を振り返り、組み立てる視点とは』

これまでどおりの保育ができない今だからこそ、「振り返り」が重要!
「できなかったこと」の原因を探ることとともに、「できたこと」の中にこそ手がかりがある!
正解はない。どうしたらできるのか、子どもの姿から子どもと職員、保護者みんなで話し合って保育を組み立てていくことが大切!



子どもたちが主体的に遊んでいるか日々職員に提案しながらの保育。若手にも手本になるよう見せつつ日々小さな気づきの積み重ねと発見。いっぱい学びました。
大阪 保育士

午前・午後を 通しての 学びあい

命を守る保育が一番。保育の質に
差があってはならない。

あらためて気を引き締めて保育を
していきたいと思いました

保育の
重大事故を
なくす
ネットワーク

平沼博将さん
(大阪電気通信大学)



参加者の感想

保育施設で起きている様々な事故の例や、実際に保育施設でうつぶせ寝による窒息でお子さんを亡くされた保護者の方のお話を聞き、直接的には保育者の問題もありながら、背景に保育制度や基準についても学び、要求していく必要があることを学びました。

このようなことを繰り返さないために、制度の見直しや基準の統一を求めること、今日直接保護者の方に聞いたことを園に戻ったら必ず上げ、自分たちの保育を見直していくことを確認しました。
(広報部取材)

平沼先生のお話では、保育園でのうつぶせ寝がいかに危険なことかよくわかった。寺町先生の溺水のパターン。プールの監視は何を見るかが勉強になりました。

認可・認可外に関係なく、事故は起こりうるが、それを未然に防ぐために、園全体で安全管理の徹底は大事なことだと思った。ちょっとした油断が事故につながるので、子どもたちの命を守る重大さ、重みを痛感した。

とても勉強になりました。毎日の生活がで、子どもたちへの注意が少しでもマンネリ感があったり、忙しいということが言い訳にならないよう、しっかりと安全を考え、注意意識しながら仕事をしていきたいです。

保育施設での重大事故からこどもの命と安全を考える



寺町東子さん
(弁護士)

シンポジウム

保育施設での重大事故から保育の基準を問い直す

藤井位予さん (赤ちゃんの急死を考える会)

浅野 誠さん・浅野美奈さん (赤ちゃんの急死を考える会)

岩狭匡志さん (大阪保育運動連絡会)

石川幸枝さん (全国保育団体連絡会
全国民間保育園経営研究懇話会)

つい最近の園バスの事故の場合、管理者である園長が一人で運転し、子どもたちを送迎していた事。人数確認がされていない事。また、子ども同士が誘っておりとかはなかったのか?担任はクラスで朝、出欠の確認をして、欠席理由を事務室などに聞いたりしなかったのか?など複数の疑問や問題点があった。その時点で確認していれば助かった可能性もある。人数確認は基本である。さらには、保育園内の職員間のチームワークができていけるかは大きな鍵。それでこそ子どもの安全と命が守られる。思う事が言えたり聞けたりする職員関係であることは、子どもの安全を守る土台です。

録画配信で ぜひご覧ください

参加者の感想

とても貴重なお話が聞けて良かったです。改めて保育施設で働く立場としての責任を強く感じました。子どものいのちを第一に考えた仕事ができるように、職場の人たちと話をしたり考えたりを続けていきたいです。

すべきことは、暴力や事故が起こらないように対策をいくつも考えておくなどの話を聞き、改めて責任をもっているんな可能性を考えて仕事をしたいと感じました。

保育の大前提は「命」を守る。何歳になっても何年保育をやってきていてもあらためてこの仕事の深さ、全人格をかけて保育をしていかなければと感じました。